

# 音楽との出会い「希望に」 「色での区別」感じた抵抗

## 大分高でLGBTQ学習会

【大分】大分市の大分高で、人権について学ぶ「LGBTQ学習会」があった。男性として生まれたことに幼少期から違和感を持ったトランスジェンダーの同高非常勤講師、倉堀翔さん34が講演。周囲の心ない言動に苦しんだ生い立ちを赤裸々に語り、希望につながった音楽との出会いに感謝した。

SDGS

おおいた



「理解することの大切さ」をテーマに自分の体験談を語る倉堀翔さん。大分市の大分高

2日にあり、1年生約200人が参加した。2017年から同高で音楽を教える倉堀さん。「理解することの大切さ」と題して体験談を披露した。幼少期から「なぜ男なんだろう」と心と体の性別が一致しないことに苦悩。ランドセルや洋服の色を性別で区別されることに抵抗を感じたという。中学時代はトイレや体育の着替えなど、女性の心を持つ倉堀さんにとって「地獄だった」と振り返る。一方で、吹奏楽部に入り「人生の友」となるクラリネットを始めた。大分雄城台高でも吹奏楽部に入部。恩師から「音楽は音を出せばみんな一緒だよ」という教えを受け、嫌なことを忘れられた。

## 非常勤講師 倉堀翔さん 生徒に体験語る



倉堀翔さんの講演を聴く1年生

しかし、高校在学中に恩師を亡くした。「自分も子どもに寄り添う先生になろうと決めた」と涙した。音楽大卒業後、音楽教諭として最初に赴任した中学校で生徒にからかわれた。「先生は男じゃない」という素直

な気持ちの表れ。うそをつかずに生きよう」。24歳で外見も女性として生まれ変わったという。

現在は別府アルゲリッチ音楽祭若手演奏家コンサートなどでクラリネットを演奏する。大分高では昨年、教え子を日本シユニア管打楽器コンクールで銀賞に導いた。「クラリネットがあったから生き抜けた。差別をなくすことは難しいが、LGBTQを理解するきっかけにしてほしい」と呼びかけた。

原田隼さん16は「先生の体験は心に響いた」、園田稟さん16は「すごく感動した。友人にLGBTQがいても構わない。普通のこと」と話した。

(坂本陽子)

### LGBTQ(性的少数者)



同性愛者のレズビアン、ゲイ、両性愛者のバイセクシャル、心と体の性が一致しないトランスジェンダー、自分の性別が分からない人、意図的に決まらない人などクエスチョニングの総称。英語の頭文字。

